

辻堂市民センター等再整備地区全体説明会

(日時)

2016年9月22日 午前10時00分～11時30分

(場所)

辻堂市民センター ホール

(対象)

市民（辻堂地区内回覧にて周知・高砂小学校、浜見小学校、高浜中学校保護者には生徒を通じ個別配布）

(参加者)

市民：40名

辻堂市民センター・公民館建設検討委員会

地域団体等代表委員：6名

市民自治部長

市民自治推進課：3名

消防総務課：3名

教育総務課：2名

福祉総務課：1名

生涯学習総務課：3名

総合市民図書館：1名

辻堂市民センター：3名

(議事)

○質問、●回答等（市）、■回答等（建設検討委員会地域団体等代表委員）

●司会（地域委員）

辻堂市民センター再整備説明会を開催させていただきます。

（市民自治部長挨拶）

（建設検討委員会地域団体等代表委員挨拶）

（職員挨拶）

●説明

現在の辻堂市民センターは、昭和53年の建築で、旧耐震基準で建設されています。建物の老朽化のほか、窓口や事務スペースが小さく、車の駐車台数も不足しており、また、建物内にエレベーターがないなどバリアフリーに対応できていない課題があるため、再整備が必要な状況です。また、南消防署辻堂出張所は、主に夏期や週末を中心として前面道路に交通渋滞が発生しやすいことにより、迅速な出動態勢を確保することや、大型消防車両が出入庫するための前面スペースが不足しているなどの課題があります。

②の再整備の基本方針ですが、公共施設の再整備にあたっては、「公共施設の安全性の確保、

長寿命化、機能集約・複合化」の3つの基本的な考え方を掲げています。その背景としまして、藤沢市が保有する公共施設の半数近くは築30年を超えており、多くの公共施設が今後次々と更新時期を迎えます。特に、築30～40年の施設が多く、更新時期が集中していきますが、今後、少子高齢化がますます進み福祉にかかる扶助費などの歳出が増える一方、税収の増加は見込めない状況ですので、施設を単純に更新していくことは財政的にも困難な状況にあります。

また、本市の人口は、平成42年をピークに減少に転じると推計されています。これまでは人口の伸びに合わせて施設数を増やしてきましたが、今後は人口の減少に合わせて周辺公共施設との複合化を進めて施設数を縮減し、事業費及び維持管理費の削減が必要になってきます。

藤沢市の公共施設の再整備にあたっては、平成26年3月に「藤沢市公共施設再整備基本方針」を策定し、市の公共施設は、原則公共施設の単独での建て替えは行わないことなどを定め、同年11月には、「藤沢市公共施設再整備プラン」を策定し、辻堂市民センター再整備を短期プランに位置付け、再整備していく方針を定めました。

1つ目の公共施設の安全性の確保については、公共施設は多くの市民の方が利用する施設であることから、施設の安全性の確保を最優先して、昭和56年以前の耐震基準で建てられた施設は機能移転を含めて再整備を進めることとしました。

2つ目の公共施設の長寿命化については、事後保全型の維持管理から予防保全型の維持管理に移行することとしました。

3つ目の公共施設の機能集約・複合化については、老朽化した公共施設を建て替えるときは、他の公共施設を一体の施設として、建て替えることとしました。

辻堂市民センターを現在地で建て替えることは困難なことから移転用地の検討を始め、元神奈川県職員住宅辻堂西アパート敷地、旧市道及び高浜中学校テニスコートの用地を一体的に活用して再整備を進めることとしました。

「3つの基本コンセプト」ですが、辻堂市民センター等再整備にあたって、「防災機能を強化する」「交流とふれあいの輪を広げる」「地域包括ケアシステムを支える」の3つを掲げました。

アの「防災機能を強化する」については、辻堂まちづくり会議の前身である辻堂地域経営会議からの提言を踏まえ、災害時の安全と安心の確保の実現に向けて、市民センターと消防出張所の複合化により、平常時から地区防災拠点である市民センターと消防出張所の情報共有をスムーズにし、災害時にはこれまで以上に緊密な連携を図れるほか、辻堂地域の避難施設に指定されている小中学校、市民センター、消防出張所が隣接する強みを生かせ、地域からご要望の強かった災害に強い施設とすることにつながります。

イの「交流とふれあいの輪を広げる」については、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集える交流の場として地域交流スペースを設置し、サークル活動で作成した作品の展示や郷土史料の展示なども行います。

ウの「地域包括ケアシステムを支える」については、地域包括支援センター、地区ボランティアセンターを複合化し、福祉窓口との連携により、子どもから高齢者まで安心して暮らし続けられるよう、市と地域の人々が一体となって支え合えるサポート拠点となる施設とします。

③新施設の機能・配置の方向性ですが、新施設には、辻堂地区内の辻堂市民センター・公民館、市民図書室、地域包括支援センター、地区ボランティアセンター、防災備蓄倉庫、南消防署辻堂出張所、消防団第10分団、高浜中学校テニスコートを複合化し整備します。市民センター・公民館には、バレーボールなどができる体育室を新設し、災害時には一時的な避難場所とします。

「④新施設計画における配慮事項」ですが、施設の安全性の確保、ユニバーサルデザイン、環境への配慮、長寿命化への対応、周辺住宅等への配慮を挙げさせていただきました。施設の安全

性の確保については、市民センター・公民館は多数の方が集まる施設であり、災害時は消防出張所とともに地域の防災活動の拠点となることから、耐震性の高い施設とします。周辺住宅等への配慮としまして、人と車の安全な通行に配慮します。

⑤事業実施における計画ですが、スケジュールとしまして、昨年度平成27年度に基本構想を策定しました。今年度平成28年度には基本設計と測量調査を行い、平成29年度に実施設計と元神奈川県職員住宅辻堂西アパートの解体工事を行い、平成30年度から新施設の建築工事を行って、平成32年度夏頃に新施設をオープンする計画としています。

市民センター・公民館に設置する主な諸室は、「主な諸室等の面積・規模」のとおりです。この中で、サークル活動などで皆さんにご利用いただく施設としては、現在辻堂市民センター・公民館にある諸室は、原則同じ機能を設け、さらに体育室、音楽室、保育室を新規設置する計画としています。駐車場は約30台分、駐輪場は自転車・オートバイを合わせて約90台分の設置を計画します。

「配置計画」ですが、施設の配置につきましては、主な施設である市民センター・公民館、消防出張所、高浜中学校テニスコートは図のように配置しました。

このような配置としましたのは、市民センターは、高齢者や障害のある方、妊婦や乳幼児を連れた方などたくさんの方々に来庁されますので、多様な地域の方々が訪れやすく、また、災害時は、体の不自由な方や車いすの方など誰もが避難しやすい施設とするため、人通りの多い道路に面することとしまして、敷地東側に配置しました。

消防出張所は、消防車両がスムーズに出入庫できるよう広い道路に面するようにし、道路と車庫の間は10m程度の空地を設けて出入庫時の安全を確保しまして、敷地東側に配置しました。

テニスコートは、変形で4面あったコートを2面に整備して、敷地南西側に配置します。現在、敷地南側には、車道に歩行者用通路が設置されていますが、再整備後は敷地内に歩道を整備し、学校との間を生徒や子どもさんが安全に移動できるようにします。

配置にあたり、基本構想を検討してきた過程で、テニスコートを敷地の北側に配置した場合も検討してきましたが、再整備予定地の北側住宅に対し、これまでテニスコートの間に建物があり、テニスボールを打つ音をしゃへいしていましたが、建物がなくなり距離も近づくことで、北側住宅へのコート利用時の音の影響が大きくなることが想定されました。また、テニスコートを南側にして建物をその北側に並べて配置しますと、新施設が敷地北側に建ちますので、北側住宅への日影の影響が大きくなります。

地域の中にある施設として、辻堂地域の方々が普段訪れやすいこと、地域から要望の強い災害に強い施設とすること、近隣の生活環境に配慮することを優先的に考慮させていただき、市民センター、消防出張所を敷地東側に、テニスコートを敷地南西側に配置させていただきました。基本構想における配置は、市民センター、消防出張所、テニスコート、近隣の状況を十分に考慮したうえで策定させていただきましたので、どうぞご理解くださいますようお願いいたします。

「各階の構成」につきましては、今年度、設計を進める中で詳細に検討を行ってまいりますので、地域の皆さまや施設を利用される方などからご意見をいただきまして、多くの方に使いやすい施設を計画してまいります。

辻堂市民センター等基本構想の内容は以上となります。

複合化する機能や建物の配置については、これまで説明会等でご意見を伺い建設検討委員会で検討して基本構想として策定いたしました。今後、基本構想を基に進めてまいります。公民館諸室につきましては、基本設計を進める中で引き続きご意見を伺ってまいります。

続きまして、地域住民からの主なご意見への考え方についてご説明させていただきます。

【地域住民からの主なご意見への考え方について】参照

(質問要旨)

○質問

包括支援センターは辻堂には東西2ヶ所あるがこのうちどちらが一緒になるのか。

●回答

西地域包括支援センターと一緒にする予定。

○質問

鶴沼・明治には郷土史の施設があるが辻堂には同じようなものができるのか。

●回答

3つの基本コンセプトの「交流とふれあいの輪を広げる」をコンセプトとして掲げている。地域交流スペースというスペースを設けさまざまなことに活用していきたいと考えている。その一部に辻堂地域にある昔からの郷土歴史的なものをかざるスペースを設けるのも一つの案であるので、今後、基本設計を進める中で検討していきたい。

○質問

この場所につくるということですね。

●回答

地域交流スペースの中に作れないか今年度検討していきたい。

○質問

自分の資料を提供したいと思っている。できるだけ協力したい。

○質問

配置計画があるが他の市民センター・公民館と比べどのくらいの大きさか。現在と比べ何倍か。

●回答

敷地面積は現在3000㎡くらいで、新しい敷地は6000㎡。建物の延床面積は約2倍くらいです。

○質問

消防が併設されるが他の市民センターではこのような例はあるか。

●回答

消防と市民センターが複合化されている一番新しいものは六会市民センター他には明治市民センターも消防出張所と複合化されている。

○質問

市民センター跡地はどのような計画か。

●回答

現在は決まっていないが使う予定がなければ売却となる。

○質問

計画はないということですね。

●回答

具体的な計画はない。このまま具体的な計画がなければ売却となる。

○質問

ここは市の土地ですか。

●回答

市の土地です。

○質問

売却するとなると、民間に売却ということですね。売却するとどのように使われるかわからないということですね。

●回答

はい、そうです。

○質問

消防署を海に近いところに持っていきのはいかがなものかと思っている。

湘洋中で工事を行っておりデシベル表示があるが学校のチャイムで71dBという表示があった。90dBはチャイムの音より大きいこれは学校に影響を及ぼすと考えている。あの地域は3校+養護学校、大学、高校がある。すごい数の学生が通るので事故の可能性が高い。

この土地を売却するという話があったが、ここに消防署をもってきて明治のような4階建て駐車場を広くしていろいろな演奏活動ができるホールがほしい。ボランティアセンターなどがあるので30台では足らなくなる。駐車場の確保のためにも消防署を現センターの場所に、津波などがあってもかなり安全であり防災的にも良いので再検討してほしい。

●回答

神奈川県が発表した津波浸水想定では敷地の南東の一部で30cm以下と発表された。県に詳しく確認したところ10cmもいかない程度の浸水予測であると確認したので消防を再整備予定地に移しても影響ないと考えている。

先ほど説明したとおり消防車、救急車のサイレンについては、道路運送車両法の規定により90dB以上120dB以下の範囲で鳴らさなければならないのでとめることはできない。しかし、近隣の住民や学校関係者の方にできる限り迷惑をかけないように安全管理上支障のない場合についてはできる限り法で定められた下限の音量まで下げて対応を図っていきたいと考えている。特に出勤頻度の高い救急車については、昔の救急車のサイレンにはスイッチを押すと最大音量であったが最近のサイレンアンプのメーカーではいろいろ考慮しており、小さな音から徐々に時間をかけて大きくなるものもあるので、突然のサイレン吹鳴に配慮し、できる限り導入しみなさんに迷惑をかけないようなかたちをとっていきたい。

事故防止安全対策については、消防車両、救急車両を運転する機関員は130時間以上の車両運行に係わる教育を受けている。教育を受けた後に試験（効果測定）を行い合格した者でないと運転することができない。それ以外にも、乗車している助手席、後部座席に乗っている職員も出勤時安全確認を行っているので心配ないと考えてよいと思う。消防署と学校が近接している施設は、御所見中学校で約20m藤沢総合高校で約50mがあるが、今まで騒音等の苦情はない。また、近隣市町村にも聞き取りしたが、ダブルになった事案はないとの回答であった。

ここに消防出張所をもってきては、ということだが、配布資料1の【ご意見①】になると思う。消防と市民センターが1体となることにより平常時から情報共有がスムーズになり、災害時にはこれまで以上に緊密な連携が図れる。近隣に避難施設である小中学校と近接しているのでその強みが生かせる。市の大きな方針として少子高齢化の中で財政事情も良くなる。今までは人口の増加に合わせ施設を増やしていたが、今後は人口の減少に合わせ複合化してい

なければならない。このことから、単独の建替ではなく市の方針として複合化して建替えていく。

ホールを大きくとのことだが、ホールをもう少し整った形で作っていききたい。

駐車場については、無断駐車にもなりかねないのでどのような管理方法にするか検討していく。

30台では足りないのではという話については、一方で30台では多いという意見もある。敷地の中でセンター、消防車、テニスコートを取り、風致地区なので緑地の面積を取りその後の面積の中で30台となった。

○質問

津波は来ないが防災上は2階にしておくという理解でよいか。

●回答

津波想定については県で想定外はしないという想定で作っているの、あれよりは浸水しない前提。車椅子や足が不自由な方が逃げる場所が近隣では階段を使って逃げる場所しかないのでスロープで逃げるような場所ということで2階にしています。

○質問

2階にあげざるをえなかったということによいか。

●回答

スロープを含めた2階の考え方は辻堂地区の防災拠点として災害に強い施設をめざすこともあり。消防出張所、市民センター、高浜中テニスコート3つの機能を限られた面積のなかで再整備していく中で、駐車場を確保し、体育室を設けると2階に配置しないと現実的に出来なかった。地震などの災害時停電も考えられエレベーターも動かないことも想定し、階段を上がる困難性もあるので、それも配慮した中でのスロープを考えている。

■回答（地域委員）

住民の立場から津波の心配をするのは当然。地域の中で選ぶと太平台の高台に置けば良いが実際に消防署ができるのはむずかしい。実際の現地での災害対応の施設としての市民センター消防署と一緒に考えると市民センターは福祉避難所であるから1階に用意しましたでよいのか。周辺には4階建てのマンションがあるのでそちらのほうがよっぽど安全。福祉避難所を1階でよしとすることはもともとできない。どんな津波のレベルでも一番高い所にもっていくべきという考え方です。東日本のようにどこまで来るかわからない。残念だった、あそこにいけば良かったとならないように屋上まで人が上られるよう強く言っていく。住民の避難に関することはとことん上にあげた方が良いと思っている。消防については、津波が来るまでとどまっているかと言うと地震が起き動けるのであれば警戒に出るであろう。被害想定が10cmであると確定的であれば信用するが、どこまで来るかわからないその中でどこかを選ぶとすれば50歩100歩だろうと思う。ある場所で配慮をしながらやり、いざとなったら車を出してというオーダーで考えていくのが住民の立場になって一番合理的であろうと思います。

■回答（地域委員）

昨年の11月28日の辻堂地区全体集会で3案説明した。風致地区であり、体育室を1階に置くと面積が取れないことから2階に配置し、一階に駐車場・駐輪場を配置した。法律の中で行うため現在のプランでできている。

○質問

消防にも辻堂が浸水したら車両は退避して災害活動が行えると言ってほしい。それが今まで

ないので不安を抱えている。安心安全な市民センター消防といえるのか。

●回答

業務継続の計画があり、今計画しているのが当てはまるか言うと直接当てはまるとは考えていない。鵜沼、片瀬の施設がたとえば津波....

○質問

防災機能はここに津波が来ても良いように考えている。それを前提に話をしてほしい。ここには津波は10cmしか来ませんでは前提が違ってくる。もし来ても大丈夫という安心感がほしい。

●回答

津波だけでなくなんらかで庁舎が使えなくなった場合に別の場所に移転しながら機能を維持する計画は業務継続計画で策定中です。今のところ消防局の計画では公共施設だけで計画している。辻堂地区についてはまだ具体的に定まっていない。

○質問

テニスコートの問題があり、テニスコートは建物の裏に隠れてしまうので学校から見えなくなるという質問をさせていただいたところ、学校から見える見えないではなく顧問の先生が見るとの回答をいただきました。テニスコートが離れてしまうので絶対に顧問の先生を付けていただくようお願いします。もし校舎北側にテニスコートができるのであれば顧問の先生は2人必要だと思うがそれは確約できるか。

●回答

顧問の先生ができるだけ配置できるよう学校にお願いしていく。万一顧問の先生が付添えなかった場合、現場との連絡が取れる手段はないか検討していく。

○質問

答えていただいている内容なので守っていただきたいと思う。事故等などでもすぐに対応できるようにしてほしい。

○質問

回覧がまわってこなかったのでホームページに案内を出してほしい。辻堂市民センター等と書いてあるが、市民センター消防出張所の移転計画だと思う。等の中に入る施設ではないと思う。今後は、「辻堂市民センター・消防出張所」として説明してほしい。辻堂市民センター等とすると消防出張所が移転することを知らない人がいると思う。初めて知りましたということを防ぐためにも出してほしい。まちづくり会議の予定は他の地区では出しているので出してほしい。

■回答（地域委員）

回覧は広報に併せ配り周知している。各自治会で掲示板に貼っていないか配っていないのかだと思う。郷土づくり推進会議は公開としているのでホームページに載せるなど今後努力します。

●回答

周知の方法についてはホームページなどに載せたいと思っている。

○質問

市民センターが出来るのは昨年11月に知った。未来に向けて市民センター公民館ができるのを楽しみにしている。皆が集まる市民センター公民館で最近出来ているものに共通するものはオープンカフェで、今の流れとしてもっとオープンに図書室は図書室と部屋を別けるのでは

なく本を読みながらカフェというものを作ってほしい。皆の会話の場としてのオープンスペースができるとうれしい。基本設計に入るにあたり私たちの意見も聞いて皆が喜ぶ市民センターを作っていければ良いと考える。

■回答（地域委員）

1階の地域交流スペースをそのように使おうと思っている。

●回答

今のようなカフェを作るというのは交流とふれあいの輪を広げるという中のご意見の一つだと思う。他にいろいろな考えを持っている方は市民センターにご意見として寄せていただき検討します。

○質問

消防に対しての要望ですが、130時間の教育を受け試験をするということだが、人のやることなので絶対はないと思う。健康管理や緊張感を持って運転してほしい。サイレンについてなるべく静かにではなく完全にとしてほしい。

○質問

駐車場より1日180台ぐらいの出入りがあると思うが信号を付けるなどの意見は出なかったか。

●回答

基本構想をまとめる中では小学校の前に信号という話はでていない。子供の安全はきちんと考え設計をしていきたいと考えている。

○質問

交流とふれあいの輪をひろげるということだが、今回の計画で市民図書室のとなりに交流スペースがあり結構なことだと思う。新しい市民図書室はとなりにできるスペースと運用の工夫をし、お年寄りも子供も交流できるよう工夫してほしい。

○質問

大型バスを止める場所はどうなるのか。

○質問

今回の説明会は構想の最終段階を住民に了解をとるものか。基本設計を進める中で多くの声をどのようにとり設計に反映するのか。

●回答

基本設計に入る前にもう一度基本構想を伝えるために開催した。

●回答

今後の進め方は建設検討委員会でどのようにするか検討するが、たとえば、意見交換会やテーマを絞った意見交換会などを行い意見を伺うなどもあるが具体的に決まったわけではない。

○質問

基本構想は行政主導でよいが基本設計に入るにあたり行政主導ではなく住民の声を反映し基本設計に盛り込むようにしてほしい。

○質問

問い合わせはどこにすればよいか

●回答

市民センターです。

○質問

構想と運用と設計の問題がごちゃまぜでわかりにくい整理するときにまとめればよい。運用上の問題が大きいと思うがここを説明することが大事。幅広く意見を伺ってほしい。

終了